

飯南中だより

～ 仲間と共に 夢へ挑戦 ～

3月号
(学校評価号)
令和5年3月6日

学校関係者評価委員会による学校評価について

早春の候、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2月8日(水)に飯南中学校学校評議員会及び学校関係者評価委員会を開催し、その会において今年度の学校評価をしていただきました。

学校評価については、生徒・保護者のみなさんのアンケート結果や学校の自己評価をもとに、年度当初に設定した目標を達成できたかどうかを示し、それについて運営協議会のみなさんからご意見をいただきました。



項目	自己評価	学校関係者評価
成果 (強み)	<ul style="list-style-type: none">・生徒は心得をよく守り落ち着いた学校生活を送っている。学校へ行くことが楽しいと感じている生徒の割合が高くさまざまな活動への参加意識も高い。・地域とのつながりが強い。・学校運営に対して肯定的に受け止めている保護者が多い。	<ul style="list-style-type: none">・生徒アンケートでは多くの項目が肯定的意見となっている。生徒が前向きに充実して学校生活を送れている。・「あしやまタイム」を今年度から縦割り班で地域を題材として探究活動に取り組んだ成果が生徒の姿から感じられて、すごくよかった。地域を巻き込んだ探究活動になっているので継続していくとよい。また、地域へ出向いていることで地域の良さを知ってもらうきっかけになっている。さらに小学校6年生も発表を見学し、質問をする機会を設定したことで、いい見本になっている。
課題 (弱み)	<ul style="list-style-type: none">・携帯電話、スマホ、タブレット等の使用時間が長い。使い方や家でのルールが必要である。・読書の時間が短い。・家庭で次の日の学校の授業の予習復習をする割合が低い。	<ul style="list-style-type: none">・あいさつは地域でもよくできるようになってきている。CSのあいさつ活動においても、あいさつが元気よく、気持ちいいとの声がある。今後も地域・保護者と連携して進めていくとよい。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・スマホ等の使用について外部の専門家を招き講演会等を企画する。・保護者との連携を密にして、学校での様子や家での様子を情報交換して課題解決に取り組んでいく。・生徒会活動とリンクさせながら生徒の主体性を大切にして改善していく。	<ul style="list-style-type: none">・学校行事に参加したときや子どもたちが地域の活動に来てもら

項目	自己評価	学校関係者評価
確かな学力の育成	生徒アンケート「授業がよくわかる」については、「そう思う・大体そう思う」の割合が昨年度を上回り、一定の成果が図られた。家庭学習はほぼ同じ、読書については昨年に比べ低い数値になっている。家庭学習・読書の充実について取り組む必要がある。	<p>って感じることは、子どもたちは本当に前向きに仲良く楽しそうにやっていることが伝わってくる。何事にも一生懸命に取り組んでいる姿は、素晴らしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホやタブレットの使用の時間が長い生徒が一定数いることが気になるが、最近は宿題や家庭学習等でも使用しているので一概に使用時間が長いから問題であるといえない。それぞれの家庭の考え方も1つではないので、使用している内容について具体的に知る必要がある。また、保護者を巻き込んだルール作りや生徒会を中心に生徒自身でのルール作りも必要である。大事なものは、使い方や弊害を教えることである。
中高連携教育の推進	<p>生徒アンケート「『あしやまタイム』『人間と社会』の時間は楽しい」と肯定的な評価はいずれも93%以上であり目標を達成できた。今年度より取り組んだ「あしやまタイム」は継続して取り組んでいく。</p> <p>小中合同研修会は、CSと連携して開催することができた。そして、研究授業は常に紹介し、各校で参観できるよう工夫しながら実施できた。各校の実践を学び合うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒はよく学習していることがうかがえる。本格的にタブレット端末を持ち帰っての予習・復習・宿題等、家庭学習が実施された。学力の定着を進めるためにも充実した使用が大切である。そのためにも保護者との連携を密にしていくべきである。 ・読書時間が少なくなっている。今までの読書の時間がスマホやタブレット端末の使用時間になっているのではないか。学校では、朝の読書を設定している。生徒が興味・関心のある本を身近に準備するなどの工夫をすることも大事である。そのために、図書室や学級文庫の充実を図る必要がある。学校司書と連携しながら生徒の読書週間が少しでも身につくような手立てを考えて欲しい。 ・今年度より取り組んでいる「スリンプルプログラム」は、生徒のコミュニケーション力の向上に大きな力となっている。今後も継続して取り組んでいく必要がある。
健やかな体と豊かな心の育成	保護者アンケート「子どもの悩み、保護者の相談に適切に対応している」が昨年に比べ7%減、生徒アンケート「先生は悩みや相談に親身になって対応してくれる」が昨年度に比べ6%増加している。今後も生徒に寄り添った教育を実現していくことが大切であると考える。また、地域や保護者を巻き込んで更に推進していきます。	
信頼される学校づくりの推進	生徒アンケートでは多くの項目で肯定的意見となっている。一方で保護者アンケートでは学力の向上、生徒の心の問題への対応など、学校に寄せられる願いも大きい。学校でのより一層の取り組みや情報発信を行い、CSを活用して地域の力を生かす工夫を熟議していく必要がある。	
教職員の力量と能力開発	<p>生徒アンケートの「先生は悩みや相談に親身になって対応してくれる。」は評価が88.2%と高いが、今後も生徒に寄り添っていく必要がある。</p> <p>定時退校・休暇取得は、昨年度より改善されたが取り組む必要がある。</p>	